

# 釧路に小規模電力網

## 北海道NWなど 牛ふん尿で発電

北海道電力ネットワークなど5者は21日、北海道釧路市の阿寒町で地域マイクログリッド事業を2023年3月から始めると発表した。牧場にバイオガスなどの再生可能エネルギー電源を設置し、平常時は牧場内の牛舎や事務所に電力を供給。災害時は阿寒町の配電系統を他系統から切り

離し、町内の避難所や酪農施設、民家に電力供給を続ける。再エネ企業などが出資する阿寒マイクログリッド(釧路市、小峯充史代表取締役)が事業主体となる。同社は事業で得た技術的知見を基に、配電事業への参入可能性も検討する。既設配電網を利用する地域マイクログリッド

ド事業は道内初。JA立系統への切り替えなど、阿寒町が阿寒町を担う。阿寒町で同日開かれた会見に出席した北海道NWの米倉幸泰執行役員・釧路支店長は「系統連系や需給運用のノウハウを活用し、マイクログリッドの実現へ最大限協力

する」と述べた。阿寒町は酪農が盛んだが、家畜ふん尿の臭いが観光業のダメージとなりがねない。このため、JA阿寒が臭気対策と再エネ導入を兼ねて、ふん尿を使うバイオガス発電事業を進めてきた。これに災害時のレジリエンス強化と脱炭素の視点が加わり、地域マイクログリッド事業に発展した。

のエコロミ(東京都千代田区、小峯充史代表取締役)や天翔阿寒などが出資する阿寒マイクログリッドが発足。21年6月に経済産業省の補助事業に採択された。コンソーシアムは、牛のふん尿を使うバイオガス発電機、太陽光発電、蓄電池を23年2月までに天翔阿寒に設置する。調整はエコロミが納入するエネルギーマネジメントシステムで行



20年には再エネ企業